

# まんさく

第286号

発行  
特別養護老人ホーム光寿苑  
まんさく編集委員会  
和賀郡西和賀町湯本30-76-1  
TEL 0197-84-2526  
koujhu@fancy.ocn.ne.jp  
題字 元理事長 太田 祖 電



【286号もくじ】

☆2～4頁★

\* 目標「総括課・調理・介護」

☆5頁★

\* 想…「災害を捉える」

☆6頁★

\* 地域密着型事業紹介

\* 職員募集のお知らせ

\* 寄附・寄贈 ご紹介

☆7頁★

\* 「共生の場」へようこそ！

\* 「光寿苑のかお」(入居者紹介)

☆8頁★

\* 「光寿苑の日々」(4コマ漫画)

\* 「自然法爾」(お寺さんのお話)

\* 「おわりに」



回想 3.11 [関連記事：5頁]

福島県山上小の方々を招いて、雪見そりと雪あかりを体験頂いた2013年の年。復興と雪どけの春を待つ、希望の火を灯した時…。

# 光寿会R4テーマ「続・知る」を軸に上半期検証&下半期目標設定

【在宅】「①居宅支援・企画部門」⇒『総括課』 ☆細川 浩☆

法人キーワード		令和4年度共通のキーワードは『続・知る』	
令和4年度上半期のイメージ	テーマ	各部署のことを知る。理解する。	
	理想上半期	目標 ①	目標 ②
	具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	防災意識を高める。  ①消防計画を部署・職員で共有する。 ②防災訓練への参加者を増やし、防災の意識向上を図る。 ⇒部分訓練・夜間訓練・総合訓練の実施〔6月～3月〕 ③「心の防災研修」開催により、個々の意識の向上を図る。 ⇒外部専門講師〔10月〕	入居者・家族・施設(職員)の相互理解  ①入居者・家族等の想いを察する。 ②家族会活動の継続『事業推進』 〔コロナ禍2カ年は主だった活動がほとんど中止となっていたため、今年度は試行錯誤をしながら実施していきたい〕



令和4年度上半期検証【テーマ】	※コロナ禍における感染対策強化のもと、感染者の自宅療養や濃厚接触自宅待機者が出る中でも、職員間のフォロー、カバー対応といった共助の踏ん張りが各部署とも伺えます。
令和4年度上半期検証【各目標】	<b>目標①</b> ①令和4年度消防計画を詳細にして、各部署回覧の上、職員閲覧共有とした。 ②防災訓練の部分訓練(分散)開催により、参加職員の増に繋がっている。 ③10月開催予定  <b>目標②</b> ①コロナ感染対策に併せ、感染対応の中、入居者・家族・職員の相互理解を持った手段を見出せていない状況にある。 ②入居者の生活の場所において交流の制限が余儀なくされてきた中、時間短縮型のフロア行事や苑行事を実施する等、少しずつ生活の場面の広がりや活気が見えてきている。



令和4年度下半期のイメージ	テーマ	各部署・入居者を知る。理解する。	
	理想下半期	目標 ①	目標 ②
	具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	防災意識を高める「 <u>防災研修・訓練</u> 」の積み重ねの実践  ①防災研修の開催〔10月〕 ⇒アンケート「質問・疑問のまとめ」 ⇒返答を受け取り「フィードバック」〔12月〕  ②防災訓練の積み重ね ⇒部分訓練・夜間訓練の実施〔2月～3月〕	入居者・家族・地域・職員の相互理解  ①入居者・家族等の想いを察する。 ②家族会活動の継続『事業推進』 ③地域連携と相互理解

# 各部署や各ユニットにて、半年毎に自分たちの目標と実践を振り返ります

【生活】「③栄養士・調理部門」 ☆高橋奈々子☆

法人キーワード		令和4年度共通のキーワードは 『続・知る』	
令和4年度上半期のイメージ	テーマ	季節感を感じて頂けるような食事を提供する。	
	理想上半期	目標 ①	目標 ②
	具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	<p>お年寄りの声を聴きながら、食事から季節を感じて頂けるようにしたい。</p> <p>①「1日1回」お年寄りの傍に行き、笑顔で声掛けをする。 ⇒お年寄りの声を厨房に持ち帰る。</p> <p>②外に出る事が難しい状況の中で、苑の中でも少しでも季節を感じて頂けるような献立や食材を取り入れる。</p>	<p>美味しく、安心・安全な食事づくりをする。</p> <p>①全ての作業は『最終的にはお年寄りの元へ行く』ことを忘れず、衛生面等も含め、『あたり前のことをあたり前に』作業する。</p> <p>②彩り・味付けを工夫して、普通食からソフト食まで美味しく仕上がり、お年寄りが安心して食べて頂けるような食事づくりをする。</p> <p>③看取り期のお年寄りに、食べたい物を少しでも食べて頂けるよう皆で協力する。</p>



令和4年度上半期検証【テーマ】	<p>※献立に季節の食材を取り入れたたり、暑い時期には冷たいメニューも多く提供する事ができた。</p> <p>※スイカ等頂いた事もあって、お年寄りに沢山食べて頂く事ができた。</p>
令和4年度上半期検証【各目標】	<p><b>目標①</b> ※介護さんから聴いたお年寄りの声は厨房に持ち帰る事ができたが、自ら積極的に聴きに出向く事はあまりできなかった。 ※盆踊りの際に、かき氷を提供できた事はよかった。</p> <p><b>目標②</b> ※お年寄りの安心・安全な食事を提供するために、毎日の手洗いや自身の体調管理を今一度見直し、しっかりと行う。 ※看取り期のお年寄りや、食事があまり食べられなくなっている方への対応ができて良かった。</p>



令和4年度下半期のイメージ	テーマ	季節感を感じて頂けるような食事を提供する。	
	理想下半期	目標 ①	目標 ②
	具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	<p>お年寄りの声を聴きながら、食事から季節を感じて頂けるようにしたい。</p> <p>①「1日1回」お年寄りの傍に行き、笑顔で声掛けをする。 ⇒お年寄りの声を厨房に持ち帰る。</p> <p>②外に出る事が難しい状況の中で、苑の中でも少しでも季節を感じて頂けるような献立や食材を取り入れる。</p>	<p>美味しく、安心・安全な食事づくりをする。</p> <p>①全ての作業は『最終的にはお年寄りの元へ行く』ことを忘れず、衛生面等も含め、『あたり前のことをあたり前に』作業する。</p> <p>②彩り・味付けを工夫して、普通食からソフト食まで美味しく仕上がり、お年寄りが安心して食べて頂けるような食事づくりをする。</p> <p>③看取り期のお年寄りに、食べたい物を少しでも食べて頂けるよう皆で協力する。</p>

# 令和4年度最終号となるため、全ての目標をご紹介させて頂きました

【生活】「⑦介護部門…こまち通り」 ☆金子利加子☆

法人キーワード		令和4年度共通のキーワードは『続・知る』	
令和4年度上半期のイメージ	テーマ	みんなを知る	
	理想上半期	目標 ①	目標 ②
	具体的な取り組み (いつ、何を、どのように)	①1日1回、離床する。 ⇒ベッドから離れる事で、シーツのしわを伸ばす事ができる。 ⇒しわのないベッド上で褥瘡になりにくくなり、身体の苦痛の軽減に繋がる。 ⇒皆と過ごす事で笑顔になり、職員も含めてお互いを知る事ができる。 ②介護技術の向上 ③気持ちよく過ごせるように環境を整える。	今日が最期の日になっても後悔しない介護  ①言葉を交わす時間を大切にする。 ②コロナ禍での家族との関わりを考え、取り組んでいく。 ⇒写真のプリントアウト ⇒DVDの作成 ⇒家族への連絡 ⇒オンライン面会等 ③気になるお年寄りについては、ユニット内でケアカンファレンスを開き、見直し・共有していく。



令和4年度上半期検証【テーマ】	※各担当がご家族に電話をして様子を伝えたり、お年寄りと向き合う時間を持てた。それらの情報をユニット内で共有し、みんなを知る事ができた。
令和4年度上半期検証【各目標】	目標① ①できたと思う。 ⇒それにより、ベッドを整える事ができたり、離床して食事する事の大切さを確認できた。 ②試行錯誤しながら、お年寄りに合った介護を模索できたと思う。 ⇒新人に教える事で、自分のやり方を見直す事もできた。 ③職員一人ひとりが意識して取り組む事ができた。  目標② ①できたと思う。 ②写真プリントについては上半期にはできなかったもので、下半期の課題としたい。 ③できたと思う。



令和4年度下半期のイメージ	テーマ	みんなを知る	
	理想下半期	目標 ①	目標 ②
	具体的な取り組み (いつ、何を、どのように)	①1日1回、離床する。 ⇒ベッドから離れる事で、シーツのしわを伸ばす事ができる。 ⇒しわのないベッド上で褥瘡になりにくくなり、身体の苦痛の軽減に繋がる。 ⇒皆と過ごす事で笑顔になり、職員も含めてお互いを知る事ができる。 ②介護技術の向上 ③気持ちよく過ごせるように環境を整える。	今日が最期の日になっても後悔しない介護  ①言葉を交わす時間を大切にする。 ②コロナ禍での家族との関わりを考え、取り組んでいく。 ⇒写真のプリントアウト ⇒DVDの作成 ⇒家族への連絡 ⇒オンライン面会等 ③気になるお年寄りについては、ユニット内でケアカンファレンスを開き、見直し・共有していく。

# 想... 災害を捉える ~岩手から発信します vol.4~

## 『3.11から12年... 当時を想起して今想う事』 太田宣承

あれからもう12年。忘れてはいないのだけれども、世の空気感は昔の出来事... みたいになってはいないだろうか。当時を想起しながら、今の課題に目を向けて想いを綴ってみます。

阪神淡路大震災から10年の年、神戸市で開催されていた震災から学ぶ全国フォーラムに参加していた。あの大地震は「ボランティア元年」とされ、その後の日本のボランティア活動や体制を築き上げていく出発点となった。フォーラムの講演の中、ある先生が語った。

▽ボランティアは「止むに止まぬ心の動き」が起こり発動するもの。大災害を前に、居ても立っても居られない人の心が実践を生み出していくのだと言えらるだろう。

あのフォーラム以降、新潟での2つの大地震を経験。その後の3、4の頃には数多くのボランティアの方々や東北3県に足を運んで下さった。もう少し正確に言えば、あの巨大災害を前に外部ボランティアが被災地に入れないう状況が当初は続いていた。ゆえに被災者である日本人達が自然発生的ボランティアと成り、窮地を凌いだのだ。人の真の強さや優しさを目のあたりにした時間がそこに存在した。下の写真はその11から2ヶ月後のひなたぼっこの合所。避難して西和賀にいた陸前高田の方々に、こ

ちらか何かしてあげるではなく、逆に色々な形で支援して頂く場をつくり、「ありがとう」と互いに言いあえる環境を整えていった。話は変わるが、2010年の世界的アンケートで、「貴方の暮しの中で最も大切な事は何か？」との問いに対し、日本人のトップ3は、

①健康 ②金 ③家族

となっていた。私はこの結果に対して、「金や家族を上回っているのは悲しいですね。3・11以降、この順位が逆転している事を願っています。」と言いつけてきた。しかし、現在世の中はどうか変わっているだろう。コロナと戦争の大打撃に家族は分断され、物価等の尋常ではない高騰に生活苦に襲われる状況。拳句の果てには、20s 如代の若者が金欲しさに強盗殺人を犯すサギ集団を作り出す。金に翻弄され、人も人とも見ない有様が横行する。

この現状、縁遠いと思っただけにスズを覗いている人も多いのかも知れないが、その種はコロナ禍により撒かれてはいやしないかと危惧している。その一つとして、華儀や法事の簡素化や省略化を多く目



被災した皆さんが支援され続ける日々、光寿苑は寧ろ皆さんにご支援頂く事を色々企画した。

のあたりにする今。親類を集める煩わしさからは解放され、儀式を無くする事で自分たちの「いかに最優先される。」「直葬」は最大の事。

「共助」で成り立つ人間関係を断ち切り、小さい仲間内だけの関係を生きる。不都合になればその仲間も断ち切る。自分に利益のない他人がどうなるかが構わない！

なんて人が増えていくとしたら、七き人を吊う一大行事を通して、共助で育まれいく人間の豊かさを取り戻したい。人と出遇い、己が人と成れる場は絶やしてはならぬ。

宣

今月の登録者の方々  
14 名 様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」  
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

今年の春はもうすぐそこにある♪「ひなたぼっこの日常」



2023/03/03 09:55



2023/02/19 09:33



2023/02/03 14:37

【左上、下】暮らしの作戦会議(笑) 【右上】お茶会「恵方巻作り」

おかげさまでした

**ご寄附** ★=光寿苑、☆=ひなたぼっこ

★小専商店様 [湯本]

**ご寄贈**

★おおしま商店様 [湯本]

☆高橋ちづ子様 [下前]

☆佐々木里子様 [北上市]

**面会** [2/1~2/28]

【看取り期面会】… 延べ 5名

【対面面会】… 延べ24名

【オンライン】… 延べ 1組

光寿会へのご支援

職員募集してまあす♪

まず、来てみたらいいじゃ☆



協力歯科医よっちゃん先生も応援してくれております(^\_^)

へ『共生の場』  
よよこそと♪

【光寿苑の新しいお仲間をご紹介します】



中川 邦子 さん  
\*西和賀町  
\*昭和のお生まれ



柏崎 サダ さん  
\*西和賀町  
\*昭和のお生まれ

光寿苑のかお

【入居者紹介】



高橋 貞さん

☆西和賀出身の温厚なお母さま♡  
自齒もキレイで表彰されました♪  
【担当:佐々木瞭、田村初恵】

貞さん、旅行が好きで、旦那さんと一緒にちよこちよこ行かれていたそうです。右の早真は、夏油温泉に行かれた時のひとコマと、ご家族から教えて頂きました。今も昔も穏やかな優しいお顔をされていますね♪  
若い頃は土方の仕事(土建業)をされていたそうで、何と橋造りにも参加されていたとのこと。貞さんの家囲気からは想像できず、ビックリしました。  
これから穏やかな時間を保てる様、がんばります。



{70代の頃の貞さん。水もしたたるよい貞さんです♡}



イラスト：1000

「イケメン」はここまで多大な影響  
力を持っているのか！と感じた時  
だったか、しいちゃんたちからす  
ば、やはりめんこい美人さんの方  
がいい！なんて答える人も少な  
くない。いずれにしても、事は至  
ってシンプルに起きている(笑)。

# あたしの背負ってきたの、なにかしら。

## 《幸田文》

### 第5回 丸田善明

#### 自然法爾 (じねんほうに)

昨年の女月末日で、真宗  
会館の館長の座を下りた。

それから一年近く経つ。

日々、自坊の隠居所に居  
て、定時の勤行が終われば

書見と雑文作成。あまり外出もしない。気が  
乗らなければ、茫然と日を過ごす。

退任間近な頃、朝日新聞のコラム「折々の  
言葉」に幸田文さんの随筆「老いの身じたく」  
からの一文が載った。冒頭の言葉に次いで、

「何の荷をおろしたんだらうね。」  
とあった。

退任の時、会館の後事には、相談された  
こと以外は関わらない」と決めた。せつかく

現職を取り組もうとしている  
ことは前職が口を狭んでくる、  
等というところほど出鼻をくじ  
かれることはない。そう考え  
ての決意だった。

「お辞めになったんですね。淋しくありませ  
んか」と聞いてくる人がいるが、「別に淋しい  
ことはありませんね」と答えている。しかし、  
一緒に取り組んだ人たちのことは懐かしい。会  
って話したいなあと思うが、きつと間が持た  
ないだらう。新聞のコラムは、作家の心境を、  
次の言葉で結んでいる。私、同感！である。

「荷を下りたの作業が果てたのかも知らない  
けれど、軽くなるのは悪くない。」

### おわりに

車いすテニス界のレジエント・  
国枝慎吾さんが先々月、電撃引退  
するニュースが流れた。彼は、数  
々の深い言葉を世に発信している。

「目が悪ければメガネをかける  
ように、僕は足が悪くから車いす  
でテニスをしているだけであって、  
特別なことだとは思っていない。

そのメッセージ性は、僕の中に  
そんなにない。ただ、共生社会と  
か多様性とか、そんな言葉が要ら  
なくなるのが理想。純粋にスポー  
ツとして楽しんで観て欲しい。」

障がいとは長く、自分も普通と思  
っている人間が作ってきた壁。楽  
しみ方アプローチの違いを尊か  
あって、広い眼を持ってたらいいな

※心に残るものは、いつもシンプル。